習うてをらん、取入つたり、世辭をいつたり、頭を下げたり、腰を曲げたりすることを。　服從に慣れるまで、もう少し歎かせておいて貰ひたい。……だが、そこにゐる人達の顔には記えがある。　みんなわしの臣下ではなかつたか？　時々わしに向つて「萬歳！」と叫んだ者共ではないか？　昔ユダがキリストに對してさうした。　けれどもキリストは十二人の弟子のうち、不義者はたつた一人、あとはみんな忠實であつたのぢや、が、わしは一萬二千人中に、たつた一人の忠臣をも見出ださない。　神よ、王を助けたまへ！かういつても、アーメンといふ者もないか？　わしは導師と書記とを兼ねんけりやならんか？　ぢや、いはう、アーメン！　神よ、王を助けたまへ！

ヨオク　王はわしではないのぢやが。　でもアーメンといはう、天がわしを王とおぼしめすのなら。……（ヨオクに）何の爲にわしは爰へ呼び出されたのぢや？國王職にお疲れとあつて、既に御甘諾なされました通り、ヘンリー・ボリン

グブルックどのへ御讓位の事を御實行遊ばされるために。

王　王冠をよこせ。（と王冠を受取つて、それを捧げ）さ、從弟王冠をお取りなさい。……さ、從弟、……

はじめは躊躇してゐたボリングブルックが漸く進んで王冠に手を掛ける。

こちらにはわしの手があり、そちらにはあんたの手がある。　此金の冠は、かたみ代りに水を充して、二つの釣瓶で掛む深い井戸の

やうなものぢや。　空のはうは、いつも空中に高く躍つてをるが、一方は底へ沈んで、人目に觸れず、水が一ぱいになつてをる。　その沈んでをる釣瓶がわしぢや。　わしは悲みを飲んで、涙で一ぱいになつてをる、あんたが高いとこへ昇つてをる間に。

ポリ　（やゝ意外らしく）御甘諾の上の御讓位だと心得てをりましたに。

王　王冠は甘んじて讓ります。　が、悲みは飽迄もわしの有ぢや。　わしの榮譽やわしの權力はどうとも處分なさることが出來る。　けれどもわしの悲みだけは、あんたの自由にはならん。　わしはわしの心の王ぢや。

ポリ　御心勞の一部は、王冠と共に手前へお讓りになるわけです。

王　あんたの心勞がはじまるからというて、わしの心勞がなうなりはせん。わしの心勞は其心勞をなうしたためぢや、舊い心勞がなうなつた爲である。あんたの心勞は其心勞を得た爲ぢや。　すなはち新しい心勞が手に入つた

爲である。　わしにはまだ心勞がある、讓つてしまうたにも拘らず。　王冠に伴ふ筈の物ぢやのに、まだわしのとこに殘つてをる。

ポリ　（やゝこちらへかれた體で）御讓位には御異議はありませんか？

王　（決斷しかねて）ない、いゝや、ある。　ある、いゝや、ない。　何でもない者にならんけりやならんのゆゑ、それゆゑ決して否ではなく讓位します。　さ、わしが王でなくなるのを見て下さい。　先づ、此わしの頭にあつた重い物を讓ります。　それから手に持つてゐた此荷厄介な梃を讓ります。　わしの此胸にある王權の誇りをも捨てる。　自分の涙で塗つた香油を洗ひ落して、自分の手で王冠を引きわたし、自分の舌で神聖な王であることを否み、自分の息で臣民一同の誓約を免除し、榮華をも威嚴をも誓拒し、莊園も地料も歲入もみんな捨てる。　制定も命令も法典もみんな取消す。　神よ、吾等に對して誓約を破つたる者を悉くお赦し下さい！（ポリングブルックへ思ひ入れあ

って）あんたに對して誓ふすべては、神よ、お破らせ下さるな！　何にも有たぬわしを何でもないとに歎かせ、何もかも得たあんたを何事にも滿足させて下さい！　あんたは末長くリチャードの座におすわりなさい、リチャードはもうぢきに土の中へ臥るでらう。　王でなうなつたリチャードがいひます、神よ、王ハーリーを助けて、多年の多幸なる麗日を彼れに與へたまへ！

……まだ何か要求があるかい？

ノオ　もう一ヶ條だけです。　それは、御自身が御部下と共にお犯しになつた國家に對する御罪惡の彈劾狀をお讀み上げの上、一々御自白になりまして、御退位の當然であることを人々に了解せしめられますることであります。

王　それをせにやならんか、わしが？　わしが織りあげた失行を、自分で一々解きほぐさにやならんか？　ノオサンバランドよ、若し汝の罪惡が錄されてあつたとしたら、其中には、臣たるの盟約に背き、無法にも王を廢黜したといふ、天の記錄にも特筆された憎むべき一ヶ條があるべきぢやが、汝はそれを、このやうな晴れの席で、見事、恥かしげもなく讀み聞かせるか？　やい、わしが斯んなに淺ましく辱められて、苦しみ惱むのを、突立つて傍看してゐる一同の者も聞きをれ、中には上部だけ氣の毒さうにしてピラテと共に手を洗はうとしてをる者もあるやうぢやが。　やい、ピラテども、汝らは國王のわしを苦境におとしいれたのぢや、水では汝らの罪業を洗ひ落すことは出來んぞ。

ノオ　もし、御前、お早く。　各箇條をお讀み下さい。

王　目が涙で曇つて、よくは見えない。　けれどもこゝに大勢の叛逆人のゐることだけはよく見える。　いや、目を反して見ると、自分もまた其仲間ぢやといふことが分る。　なぜなら、わし自身が十分承知の上で王服を脱ぐのぢやから、榮譽を貶辱に、君權を奴役に、威嚴を賤陋に換へるのぢやから。

ノオ　もし、御前、わが君……

王　何ぢやと？ 傲慢な、無禮者めが！ おのしの君でもなければ、わしはだれの君でもない。 名もなければ爵位もない。 いや、洗禮盤で貰うた名さへも、纂はれてしまうた今は無い。 あゝ、淺ましいとぢや、何十回となく冬を重ねて來たのに、自分の呼び名をさへも知らんとは！ おゝ、いつそ雪で出來た王になつて、ボリングブルックの太陽に照されて、溶けてしまひたい！ 善い王よ、大いなる王よ、大いに善いとは呼びかねるが、わしの言葉がまだ此イギリスで通用するなら、すぐ鏡を持つて來させい、わしがどんな顏をしてをるか、見たい、王の威嚴の破産時なのぢや。

ボリ　だれか往つて、鏡を持つて來い。

侍者一人入る。

ノオ　鏡が參りますまでに、どうが書面をお讀み下さい。

王　鬼め、もうおれを苛責するのか、まだこゝは地獄ではないのに！

ボリ　ノオサンバランド卿、お强ひ申さんがいゝ。

ノオ　それでは、平民共が滿足しません。

王　いゝや、きつと滿足する。 わしの罪業の書いてある其書をさへ見りや、讀むから。 といふのはわし自身の事ぢや。

侍者が鏡を持つて出る。

鏡をくれ。 それで讀む。（と鏡を取つて、顏を見て）まだ大した皺はないな。 かさねゞ〳〵悲みの打擊を受けたのぢやが、このくらゐの傷しか附かなかつたか？ おゝ、追從者の輕薄鏡め、おれが榮えてゐたころの臣下同樣、おのれ、おれを騙しをるか？ これが一家庭に、毎日一萬人を扶持してゐた顏か？ これが太陽のやうに、仰ぎ見る者をまぶしがらせた顏か？ これが愚かの限りを盡して、遂にボリングブルックの爲に、面皮を剝がるゝに至つた顏

か？　あゝ、脆いは榮光！　その脆い榮光そのまゝの脆い此顏！

と鏡を地上に拋つ。鏡がこな〳〵に碎ける。

それ、その通り、微塵に碎けた。……おい、默つてをる國王よ、此わざくれの意味がわかるか？　悲みの爲に、わしの顏は破れた。

ボリ　いや、お悲みの影の爲に、お顏の影が破れたまでゝす。

王　え、何？　わしの悲みの影ぢやと？　え！　かうつと。（と考へて）なるほど。わしの悲みは、みんな內に潛んでをる。かういふ外にあらはれる悲みは、苦悶する靈魂の奧底で、默つて波を打つ、目に見えん深い〳〵哀傷のほんの影ぢや。そこにあるのが本當の悲みぢや。あゝ、王よ、重ね〴〵の恩賜の禮をいひます、わしを悲ませて下された上に、どういふ風に悲むのが本當かといふとまで敎へて下さるのは、有りがたい。で、もう一つ無心がある。さうすれば、すぐ立退く。もう迷惑は掛けん。聽いてくれますか？

ボリ　おつしやつて御覽なさい、從弟殿。

王　從弟殿？　あゝ、わしは王より偉くなつた。王であつた時分には、追從をいふ奴は、臣下ばかりぢやつたが、臣下となつた今は、王が追從をいうてくれる。さう偉くなつて見れば、もう無心するのはよさう。

ボリ　まアおつしやつて御覽なさい。

王　聽いてくれますか？

ボリ　聽きませう。

王　往かせて下さい。

ボリ　どこへ？

王　どこへでもよい、あんたのをらんとこへ。

ボリ　こら、だれか、リチャードどのを、塔へお送りせい。

王　おゝ、送るとはふさはしい言葉ぢや。これが、取りも直さず正統の王の野

邊送りぢやから。

王を警護して一衞兵と二三の貴族が入る。

ポリ　次ぎの水曜日を卽位の當日と定める。貴族たちには、其準備をなさい。

カーライルの監督、ウエストミンスターの院長、オーマールだけ殘りて、他は皆入る。

院長　あゝ、痛ましい觀せ物を觀ましたわい。

カーラ　きつとわざはひが起ります。まだ生れん子供らの世になつて、けふの野薔薇の、刺の鋭さを思ひ知りませう。

オー　兩高僧、あの危險な國家の汚點を、何とかして取除く妙案はありますまいか？

院長　さア、……それに就いて、腹藏ないお話をいたす前に、他言はなさらんといふこと、幷びに何事にまれ、手前が考案通りを實行なさるといふことの御誓約が願ひたい。お顏には御不滿の色が見える、御心中の悲みは嘸、お目に涙があふれてゐます。拙宅へおいで下さい。御一しよに晩餐をしたゝめ、さて後に、樂しい未來を豫想せしむべき一案をお話し申さう。

入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

第五幕

第一場　ロンドン　ロンドン塔へ通ずる街路

妃が官女らを従へて出る。

妃　王はこゝへおこしであらう。　これはジュリヤス・シーザーが築いた不吉な塔へ行く通りぢや。　あの石造の塔の中に、王は傲慢なボリングブルックの捕虜となつて、罪人のやうに取扱はれておいでになる。　こゝで休んでゐよう、幸ひに地面が謀叛はしながらも、なほ其まことの王の妃に、休み場

處だけを供してくれるなら。……

リチャード王が衞兵に警護されて出る。妃はそれを目早く認めて

だが、おまち。　あゝ、お見。　いや、いつそお見でない、あの麗しい薔薇の花の、萎れはてゝゐるのを。　いゝえ、やつぱり見ておくれ、ながめておくれ、お可哀さうなと思ふ餘りに、體ごと溶けて露ともなり、まごゝろの涙と降りそゝいで、萎れておいでのを生き返らせてあげるために。……(王に)あゝ、あなたは大昔のトロイの城跡です、名譽の繪姿です、リチャード王の墓石です、リチャード王ではない。　あゝ、あなたは莊麗な旅館だのに、どうして醜い悲みなぞが泊つたのでせう、喜びは麥酒屋の客にすらなつてゐるのに？

王　と取りすがりて泣く。

お泣きでない。　悲みの身方になつて、わしの臨終を早めるやうなことを

妃

して下さるな。　ねえ、今までのわしの境遇は樂しい夢であつたと悟つて下さい。　その夢が醒めて、本當の現身になつて見ると、わしは見るも怖ろしい「貧苦」と切つても切れん兄弟仲なのぢや、死んでしまふまでは、離れられん。　あんたは急いでフランスへ歸つていつて、どこかの寺院へお籠りなさい。　道に背いた生活が此滅亡を招いたのゆゑ、神聖な勤行で、新世界の榮光を求めねばなりませんぞ。

（きつとなつて）まア！　わたしのリチャードどのは、姿ばかりかお心までが變つたのか？　衰へましたか？　ボリングブルックに智慧までお纂られなされたか？　あなたのお心までも占領しましたか？　獅子は死にかゝつてゐても、爪を突き出して、相手にする物がなければ、地を引ッ掻くとかいひます、只死ぬのが腹立たしさに。　それだのに、あなたは、小學童兒のやうに、おとなしく叱り懲され、おめ〳〵躾棒に接吻したり、意氣地なく尾を振つ

王

て、怒りに媚びたりなさいますか、獅子であるあなたが、獸の王のあなたが？

（歎息の體で）なるほど、獸の王であつた。　かれらが獸でなかつたら、まだしも幸福な王であつたらうに。　わしの前の妃よ、急いでフランスへ歸る用意をなさい。　わしは死んだとお思ひなさい。　今別れるのを最期の床の暇乞ひと思うて下さい。　退屈な冬の夜長に、爐のそばで老女どもを集めて、大昔の痛はしい話などをおさせの時、其話の返禮に、彼れらが御寢なれをいうて退る前に、わしの悲しい身

の上を彼等に話してやつて下さい、きつとみんなで泣きながら退つてゆくであらう。　無感覺の燃えさしの薪とても、人を動かすあんたの悲痛な聲を聞いたなら、同感して、泣き出して、火を消してしまふであらうから。或燃えさしは灰になつて、或ものは眞黑になつて泣くであらう、正統の王が廢黜されたといつて。

ノオサンバランド　出る。

ノオ　御前、ボリングブルックどの〻御意が變りました。　塔へではなく、ボンフレットへお送り申すことになりました。(妃に)さうしてあなたは、すぐにフランスへ御出立なさらねばなりません、さういふ御處分と定りましたから。

王　ノオサンバランド、汝はあの高慢なボリングブルックをわしの王座へ攀ぢ登らせた梯子ぢや。　今に見い、此後幾年と經たんうちに、穢い罪惡が熟み爛れて、何もかも腐り壞れる時が來ようぞ。　彼れを助けて全國を手に入れさせた汝は、よし彼れが其王領を二つに分けて、其半分を汝にくれても、尙それを不足に思ふであらう、さうして彼れはまた正統でない王を勝手に植ゑ附ける法を知つてゐる汝の事ゆゑ、大した理由はなくとも、いつ横取りした王座から彼れを急に突き落すまいものでもないと思ふであらう。非道な人間の友情は忽ち恐怖ともなれば憎惡ともなる。　さうして相憎惡する結果は、一方又は双方を當然の危險と死とにおとしいれるわ。

ノオ　手前の罪は手前の頭に！……それでもう十分です。……暇乞ひをなすつて、お別れなさい。　すぐお別れにならんけりやならんのですから。

王　では、二重に離婚されるのか？　非道な汝らは二重に神聖な婚姻を凌辱しをる。　わしとわしの冠との仲を裂くのみならず、わしとわしの妃との仲をも裂く。(妃に)さ、キッスして、二人の仲の誓約を取消さう。　いや、さうも

ならん、キッスで結んだ誓約である以上。……ノオサンバランド、さ、引き別けてくれ。　わしは北の方へ、嚴寒と病毒の北の國へ。　妃はフランスへ。あゝ、そのフランスから、可憐な初夏のやうに、花やかに飾り立てられて來たのであつたに、今は萬聖節か、一ち短い日の頃のやうになつて戻つて行く。

妃　ぢや、引別けられねばならんのか？（王に）別れねばなりませんか？

王　さやう。　手は手から、心は心から。

妃　（ノオサンバランドに）わたしをも王と一しよに、追放に處してくれい！

ノオ　さ、さういたすのが御深切かも知れませんが、聰明な御處分ではありませんて。

王　では、どこへでも、王の往かれるところへやつて下さい。

妃　さうすれば、一しよに泣くから、二つの悲みを只一つにする道理ぢや。……が、

あんたは、わしのために、フランスで泣いて下さい、わしは、あんたのために、こゝで泣かう。　どうせ接近することが出來んなら、近くにをるよりも遠く離れたはうがよい。　さ、往く道々を溜息でお算へ。　わしはわしの行く手を呻くたびに算へよう。

王　では行く途の長いわたしは、長い歎きをせねばならぬ。

妃　わしの途は短い代り、一足ごとに二度づゝ唸かう、さうして重い深い悲みで道程を引延すやうにしよう。　さ、さ、悲みの見合ひは早いがよい、腰入れをすれば死ぬまで續くから。　キッスしたら、口を塞いで別れよう。（相抱いて）さ、かうしてわしの心をあんたに。　又かうしてあんたの心をわしに。（又取りすがつて）わたしの心は返して下さい。　わたしがあなたのお心を持つてゐましたら、泣き殺してしまふかも知れません。（と又キッスして）これでわたしのは取返しました。　さ、いらつしやい。　わたしは泣いて〳〵今に

王　此心を泣き殺してしまひませう。未練に別れかねてをると、不仕合せめが浮かれて悪ふざけをしかねまい。さ、改めて、御機嫌よう！　此外はお互ひの胸が物をいふ。

左右に別れて入る。

第二場　ヨオク公の館

ヨオクと其夫人と出る。

夫人　あなた、あの後を聞かせて下さいまし、二人の従弟たちがロンドンへ参られたことに就いてお話をなさりながら、中途で泣き出して、止めておしま

ひなされました。

ヨオク　どこで止めたかね？

夫人　さア、家々の窓口から、無法、無頼の者共が、手々に塵芥を掴んでリチャード王の頭へ投げかけたといふあさましいお話まではうけたまはりました。

ヨオク　さて、話した通り、其時、公爵大ボリングブルックは、大志を抱く主の必をよく呑込んだとも見ゆる勢ひ猛き荒馬に打跨つて、公衆が聲を揃へて「ボリングブルックどの、萬歳！」と叫ぶ中を、徐ろに併しながら堂々と歩ませた。あんたが見たなら、窓が物をいつてゐるのかとも思ひなすつたらう、どの窓口からも老若の者が、貪るやうな目附、顔附をして覗きこぼれて、彼れを見ようとする。　壁といふ壁には、いろ〳〵の畫を描いた端手な布片が翻へる。　そこからも、こゝからも「イエス汝を守りたまふ！」だの、「ボリングブルックどのを歡迎！」だのと破れるやうな聲が聞える。　其間　彼れは帽

子を脱いで、右と左に振返つて、高慢な馬の頭よりも低いくらゐに頭を下げて、

夫人　「國のひとたち、ありがたう〳〵！」と挨拶しながら、通つていつた。

ヨオク　あゝ、お氣の毒なリチャードどの！　其間彼れはどこを騎つてをられました？

夫人　譬へば、劇場で、人氣役者が引込んでしまふと、外の役者が出て來ても、そいつの言ふことはつまらんと、高をくゝつて、だれもろくに目をくれないと同じに、いや、それ以上の侮蔑を以て公衆はリチャードどの通られるのを見た。

ヨオク　一人として「神よ、彼れを助けよ！」といふ者はなかつた。

夫人　そこどころか、塵芥が彼れの神聖な頭の上へ投げかけられた。

ヨオク　それをば彼れは、しとやかに拂ひおとしたが、さすがに其顏には、悲みと忍耐の徽章の涙と微笑が戰つてゐるのが見えた。

夫人　若し神が、何等かの深い思し召しがあつて、人心を鋼のやうにしておかせられなかつたなら、だれも〳〵たまらなくなつて、泣き出してしまつたらう、野蠻其者でも、氣の毒がらずにはゐなかつたらう。

ヨオク　けれども何事も天のなさる事だ。天意に對して不服を申してはならん。

夫人　今はわれ〳〵は誓約したボリングブルックの臣下だ。

ヨオク　（一方を見て）倅のオーマールが來ました。

夫人　さア、オーマールであつたのだが、リチャードに加擔したゝめに、其爵はもう亡くなつた。

ヨオク　これからは、ラットランドと呼びなさらんけりやならん。

わしは議院で、彼れをきつと新王に忠誠を誓はせ且つ盡させると約束して來た。

オーマール　出る。

夫人　ようお歸り！　新しい春が來たさうだが、其若緑りの前掛けへ、今を盛りと蒔き散らされる菫ともいふべきは、だれ〳〵です？

オー　母上、わたしはそれを知りもしませんが、知らうともしません。　その菫になりたいとは夢にも思つちやゐませんでした。

ヨオク　だが、春が來たら、如才なくやんなさい、でないと、花の咲かんうちに刈られてしまふ。　時に、オックスフォードから便りがあつたか？　例の立合ひや練物は擧行されるか？

オー　擧行されるやうに聞きました。

ヨオク　お前さんはそこへ往く筈だらう。

オー　神がお禁めなさらん以上、參るつもりです。

ヨオク　（ふとオーマールの胸元のカクシに收めてある書き物から垂れ下つてゐる捺印した紙片に目を附けて）その捺印は何だ、お前の胸元に垂下つてゐる其印は？　おや！　顏の色を變へたな？……その書面を見せなさい。

オー　父上、こりや何でもありません。

ヨオク　ちや、見たつていゝだらう。　安心のために、見せて貰はう。

オー　どうぞこれだけは、お免し下さい。　つまらんものなんです、けれども少しわけがあつて、これは御覽に入れられないのです。

ヨオク　それを少しわけがあつて、わしが見たいのだ。　あゝ、心配になつて來た、心配に……

夫人　え、何が心配になります？　きつと約束證書でせう、こんどの祭りに著る晴れ被を買入れるために取りかはした證書でせう。

ヨオク　取りかはした證書だ！　其證書を自分で持つてゐる奴があるか？　馬鹿なことをおいひなさるな。……倅、その書面を見せろ。

オー　どうぞこれは御勘辨を。　お見せするわけにはいきません。

ヨオク　是非見たい。　見せろといふに。

無理にオーマールの胸元の書面をひッたくつて讀む。

（驚いて）謀叛だ！　不埒千萬な謀叛だ！　おのれ！　謀叛人！　惡黨！

夫人　まア！　何なんです？　どうしたのです？

ヨオク　こらッ！　だれかゐないか？……

家來一人出る。

馬に鞍をおけ。（尙讀みながら）南無三！　こりやまア、何といふ大叛逆だ！

夫人　え、どうしたのです？

ヨオク　こら、長靴を持つて來い。　馬に鞍をおけ。

家來入る。

おれの名譽にかけ、一命にかけ、眞實の誓約にかけて、惡黨めを告發せにやおかんぞ。

夫人　どうしたといふのです？

ヨオク　馬鹿ッ！　だまれ！

夫人　いゝえ、默りません。……オーマール、え、どうしたのです？

オー　母上、御心配なさるな。　たかゞ、此命一つ捨てりや濟むことです。

夫人　えッ、お前の命を？

ヨオク　長靴を持つて來い。　王のとこへ往くのだ。

（家來が長靴を持つて出る。）

夫人　（家來が睨み附けて、オーマールに）オーマール、あいつをおぶち。　…ま、可哀さうに、お前はうろたへておいでだ。（家來に）往ッちまへ。　もうこゝへ來ることはならん。

ヨオク　長靴をよこせといふに。

夫人　はて、ヨオク、あなた、どうしようといふのです？　自身の犯罪を隱さうとはしないのですか？　外に男の子がありますか？　生まれる望みがありますか？　わたしの懷妊期はもうとうに盡きてゐます。　あなたは年を取つたわたしから、大事の倅をもぎとつて、母としての幸福をなくさせようと

なさるのですか？　え、あれはあなたに似てるぢやないの？　あなたの實子ではないのですか？

ヨオク　おろかな氣ちがひ女！……お前は此おそろしい陰謀を隱しておく料簡か？　十二人の者がおの〳〵聖餐を取つて、代る〴〵連判して王をオックスフォードで暗殺しようと企謀んだのだ。

夫人　其仲間に入らせないことにしませう、こゝに留めておいて往かせないやうにして。　さうすりや何でもありやしません。

ヨオク　馬鹿ッ！　どきなさい！　此奴が二十倍おれの實子であつても告發する。

夫人　若しあなたが、わたしと同じやうに、あれのために苦しい思ひをなすつたのなら、よもやそんな酷いことはなさるまい。　あなたは、あれはあなたの子でなく、わたしが不義をして生んだ子だとでも疑つておいでなさるのでせう。　ヨオクどの、わが夫、そんな邪推をして下さるな。　あれは全くあ

なたそのまゝです、わたしにもわたしの身よりのだれにも似てゐません、けれどもわたしはあれが可愛い。

ヨオク　しやうのない女だ！　えゝ、どけ〳〵！

ヨオク入る。

夫人　これ、オーマール、すぐにお父さんの馬に乗つて、大急ぎで、訴へられない先きに、王のとこへ往つて、おわびをなさい。　わたしもあとから往きます。　齢は取つても、馬ぢやお父さんに負けやしない。　ボリングブルックどのがお前を赦すまでは、跪いた膝をあげるこッちやアない。……さ、早く早く！

入る。

第三場　ウィンゾア城

ボリングブルック、パーシー並びに其他の貴族出る。

ボリ　わしの子のろくでなしの近狀を知らせてくれる者はないか？　もう三月ほど彼れの顏を見ない。　若しわしの家に何等かの災厄が降らんとしてゐるとすると、それは彼れだ。　諸卿、わしはどうかして彼れの在りかゞ知りたい。　ロンドンぢうの旗亭をしらべて貰ひたい、噂では、裏小路に出沒して、夜廻りを毆つたり追剝ぎをしたりする無賴のともがらと共に、毎日のやうに旗亭へ通ふとかいふから。　年少惰弱の彼れはさういふ放蕩仲間を後援するのを以て一種の武士道とでも心得てゐるらしい。

パー　御前、手前は、二日ばかり前に、王子にお目にかゝりまして、オクスフォードの、あの競武會のお話をいたしました。

ボリ　其時、勇士めは何といつたい？

パー　おれは女郎屋へ往つて、平々凡々の女の手袋を奪取つて來て、さうしてそれを特寵の章に身に附けて、見事、第一等の戰闘士を落馬させて見せるとおつしやいました。

ボリ　放逸な上に向う見ず。　それでもどこかに頼もしいところが有るやうにも思はれる。　年を取つて、それが物になればよいが。……だれだ來たのは？

ボーマール出る。

オー　王はどこにおいでゝすか？

ボリ　どうしたのだ、目の色をかへて、きよと〳〵してゐるのは？

オー　神よ、陛下を助けたまへ！　お人拂ひを願ひます、陛下にばかり申し上げたいことがございます。

ボリ　わしばかりを殘しておいて、みんな退りなさい。……

パーシー並びに貴族ら入る。

ボリ　從弟、どうしたのだ？

オー　（跪いて）此膝は永久に地に生えつきて離れざれ、此舌はわが上顎の裏面に密着せよ、起ちあがつて物を申す前に、赦すといふお言葉をうけたまはりませんうちは。

ボリ　まだ思ひ立つた

ばかりか、既に犯した罪か？　前者ならば、それが如何に憎むべき罪であつても、後日の忠勤のために、赦してやる。

オー　では、錠をおろすことをお許し下さい、お話を終りますまで、餘人の參りませんために。

ボリ　よろしい。

（此時、内にてヨオクの聲にて）

ヨオク　御前、御油斷なさるな。御用心なさい。叛逆人がお前にをりますぞ。

ボリ　（きッとなつて）うぬ、手出しの出來んやうにしてくれる。

（と剣を拔いて斬らうとする。）

オー　いや、復讐のお手をおとゞめ下さい。手前を御心配になる理由はありません。

ヨオク　（内にて）こゝ、こゝをお開けなさい。えゝうつかり者、野猪武者！　早くお開けなさらんと、忠義のために惡口しますぞ。開けんと、破りますぞ。

（王手づから立寄つて扉の錠をあけてヨオクを入れ、又錠をおろす。）

ボリ　（ヨオクに）どうしたのです？　まづ息を繼いで、わけをおいひなさい。危險が逼つてゐるのなら、劍を以て自衞しますから。

ヨオク　息が切れて、申されん、この書面をお讀みなさい、むゝ謀叛です。

（ボリングブルックに書面を渡す。）

オー　（王に）それをお讀みなされる時に、只今のお約束を御記憶下さい。自分は後悔してゐます。自分の名は讀まんで下さい。心は手と一つぢやありません。

ヨオク　いゝや、一つだつた、それを書いたまでは。……（王に）わたしはそれをあの謀叛人めの胸元からもぎ取りました。後悔したといつても、それは恐れ

からで、愛からではない。　生中憫愍をお加へなさると、それが心臓を刺す毒蛇に變りかねませんぞ。

ボリ　おゝ、憎むべき、大膽不敵の陰謀！　あゝ、忠良な此父親に、二心の此息子！

ヨオク　（ヨオクに）あんたは清い、潔い、銀のやうな泉だ、其泉から流れ出た川ではあるが、溝泥の中をくゞつて流れてゐたので、つい濁つて穢くなつたのだ！　善が溢れて惡に變はる。　が、其有り餘るあんたの善の餘德によつて、横道へ外れた息子さんの大罪を赦すことにしませう。

ヨオク　すると、わしの美德が彼れの惡德をかどはかしたことになり、又彼れはわしの名譽を不名譽で押潰すことになるのだ、ちやうど放蕩息子共が其親爺が爪に火を燃して溜めた金を茶々無茶にするやうに。　彼れの不名譽が死ねばわしの名譽が生きるが、さうでないと、わしは恥かしい世を送ることになる。　彼れを助けるのはわしを殺すのだ。　彼れを生かしなさると、謀

叛人が殘つて、忠臣が死刑に處せられる。

此時、内にてヨオクの夫人の聲にて

夫人　大變です、御前！　入らせ下さい！

ボリ　だれだ甲高な、一生懸命の聲で請願するのは？

夫人　女です、叔母です、わたしです。　お願ひを聽いて下さい。　後生です、こゝをあけて下さい。　まだ一度もお貰ひ申しに來たことのない物貰ひが來たのです。

ボリ　悲劇が喜劇に變つて、「王と物貰ひ」の幕が開くと見える。（ガーマールに）おい、劍呑な從弟どの、お母さんを入らせなさい。　きつと君の命乞ひに來たのだらう。

ヨオク　だれが命乞ひをしようと、赦しなさると、それがもとで、いよ〳〵罪惡がはびこりませうぞ。　腐りかゝつた關節を切捨てりや體が助かるが、このま

まにしとくと、命がありませんぞ。

オーマール扉をあける。夫人入る。

夫人　おゝ、王よ、（ヨオクを指して）あの無情な人をお信じなさるな！わが子を愛せないやうな者が、他人を愛し得る筈はありません。

ヨオク　氣ちがひ女めが、こゝへ何しに來たのだ？　其しなびた乳房で、謀叛人めを生きかへらせようとするのか？

夫人　ヨオクどの、まア、こらへてゐて下さい。……御前、どうぞ聽いて下さい。

王の前に跪く。

ボリ　まア、お起ちなさい。

夫人　いゝえ〳〵、まだ起つわけには參りません、倅を、ラットランドを、此不埒者を赦すといふ嬉しい一言を聽かせて貰ひますまでは、いつまでもわたしは

膝であるきます、幸福な人達の見る日の目をも、決して〳〵見ません。

オー　母の願ひに加へて、わたくしも膝を曲げまする。

オ！マール跪く。

ヨオク　彼れら二人に反對して、わしも忠義の膝を曲げます。　彼れらに恩惠を與へなさると、必ず災ひが起りますぞ。

ヨオクも跪く。

夫人　（王に）あれが眞面目だと見えますか？（ヨオクを指して）あの顏を御覽なさい。目からちつとも涙が出ない。　彼れのお願ひは戲謔です。　彼れの言葉は口から出るが、わたしらのは胸から出る。　彼れは否まれてもかまはん氣で、只ちよつと願つてゐるのです。　わたしらは心も靈魂も命も何もかも掛けて願ふのです。　彼れは今に疲れて、起てとおつしやれば、喜んで起ちませう。　わたしらは、膝が地に生え附くまでも、かうしてゐます。　彼れの

お祈りは僞善だらけ、わたしらのは正直律儀の一點張り。　わたしらが祈り勝つのは當然です。　お慈悲は正しい祈禱者に下る筈のものです、どうぞわたしらの祈りを聽いて下さい。

ボリ　叔母さん、まアお起ちなさい。

夫人　いゝえ、「起て」といはないで、先づ「赦す」といつて、それから「起て」といつて下さい。　若しわたしがあんたの乳母で、はじめて言葉を敎へるのであつたなら、眞先きに「赦す」といふ言葉を敎へましたでせう。　けふまでは其言葉をこれほど聽きたいとは思はなんだ。　ねえ、赦すといつて下さい。氣の毒だとお思ひなら、つい言へる筈です。　短いけれども、嬉しい、有りがたい言葉です。　「赦す」といふ言葉ほど、王さんの口にふさはしい言葉はありません。

ヨオク　フランス語でおいひなさい。「パルドンネモア」（御免下さい、御辭退します）と

おいひなさい。

夫人　ま、あんたは、正しい「パードン」を殺すために、間違つた「パルドン」をお敎へなさるの？　ま、何といふ無情な、意地わるな人！　言葉で言葉の邪魔をなさる。　ねえ、此國で通用するパードンをいつて下さい。　小理窟づくめのフランス語なんかは解りません。　あゝ、今にも言ひさうな目附をしておいでだ、さ、そこへ舌を置いて。　でなきやあんたの心臟へ耳を植ゑつけて、わたしらの泣いて願ふのを心に聽かせて、氣の毒がらせて、つい「赦す」といはせて下さい。

ボリ　まアお起ちなさい。

夫人　いゝえ、起たして下さいとはいひません、赦して貰ひたいのが、たッた一つのお願ひです。

ボリ　神の赦しを願つてゐるわたしだ。　ぢや、赦します。

夫人　おゝ、跪いた此膝のおかげで！……でもまだ氣にかゝる。もう一度いひ直して下さい。二度赦すとおいひだつても、二度赦すことにはなりません、其一度の赦しが慥かになるばかりです。

ボリ　喜んで、心から赦します。

夫人　おゝ、あんたは此下界の神さま！

ボリ　併しあの賴みになる義理の兄貴や院長や其他一味の者一同には、すぐさま嚴罰を課してくれる。……叔父さん、オクスフォードなりどこなり謀叛人どものゐるところへ、軍隊を派遣するやう、手傳つて號令して下さい。彼等は決して生かしてはおかれない、見附け次第に處分しよう。……叔父さん、御機嫌よう！　從弟、君にも。つまり、お母さんの賴みやうがよかつたからだ。これから忠義を盡しなさい。

入る。

夫人　（オーマールに）さ、おいで。わたしは、お前が新しい人間になるやうにと神さまに祈ります。

入る。

第四場　同じ處

エクストンの士爵ピヤースと家來一人出る。

エクス　汝は王がいはれたことに氣が附かなかつたか？「あゝ、おれには、あの生きてゐる危險物を取除いてくれるやうな親友は、一人もないのか？」と。さういはれたらう？

家來　へい、全くさうおほせられました。

エクス　「親友は一人もないのか？」といはれた。二度までもさういはれた。言葉に力を入れて、二度いはれたらう？

家來　へい、さやうで。

エクス　さうして、さういひながら、じつとおれの顔を見られた「おのしがおれを安心させるために、あの危險物を……といはれるのは、ポンフレットの王なのだ……除く親友になつてくれゝばいゝになア」といはうとしてをられるやうに。……さ、往かう。　おれは王の親友だ。　王の敵を除かう。

入る。

第五場　ヨオク州のポンフレット城内

王リチャード出る。

リチャ　此牢獄を世界に譬へようと思うて、いろ〳〵と考へて見たが、世界には多勢が住み、こゝには自分の外には何者もをらんから、どうもうまくいかん。が、もう少し推敲

して見よう。……先づ、靈魂を父と見做す、と、それに對して腦髓を女性と見る。此二つから生々化育して止まない思想の一血統が生れる。さうして其思想族が此小世界に定住する。彼等は氣儘者で、決して滿足したことがない、其點も此大世界の人間に似てをる。宗教的の思想は、其上流社會なのぢやが、それに疑惑が混血してゐて、聖語を以て聖語を裏切る。例へば、「來れ、子供ら」といふかと思ふと、「來ることの難きは、猶駱駝をして針の孔をくゞらしむることの難きがごとし」などといふ。……野心に傾く思想は、奇怪な空想に耽る。どうしたら此爪で、此堅固な小世界の石の肋を、此牢の壁を搔き破つて、外へ出られるかなぞと考へる。が、それは迚も出來んことであるから、只いたづらに悔しがる。……諦めに傾く思想は、己れみづからに媚びていふ、運命の奴隷になつたのは自分が最初でもなければ最終でもないであらうと。ちやうど馬鹿な乞食が、ストックに掛けられながら、かういふ目に逢ふのは、おればかりではない、といふのを恥の隱れがにするやうに。彼等はおのが不幸を、同樣な目に逢うた他人の脊中へ負はせるやうにして、一種の安心を求めるのである。……ま、こんな風に、おれは一人でいろ〳〵の人間の役を勤めるのぢやが、一度も滿足したことがない。或時は王になる、すると謀叛に逢つて、あゝ、乞食になりたいと思ふ。と乞食になる。すると甚しい缺乏の辛さが、王でゐたはうがよかつたと思はせる。で又王になる。そのうちに、ボリングブルックの爲に王位を奪はれて、何でもない身と落ちぶれる。が、何にならうと、おれなり、たれなり、只の人間である以上、何物にも滿足は出來ん、何でもない身となつてしまふまでは。……（聞き耳を立てゝ）音樂のやうぢや！……や、や！……間をはづさんで。……間がはづれたり律が破れたりしては、快い音樂も不快なものになる。人の一生の音樂もその通りぢや。こゝでは、絲の音色が亂れて

調子の外れるのを非難し得る程の高雅な耳を持つてゐるおれぢやが、政治と時とが合はんで、全國が亂調子になつてゐたのを聞き分けるだけの耳がなく、むだに時間を使うた報いで、今は時間めがおれを使ひをる。おれは時器の役廻りをさせられて、時間を數へてをる。すなはち、おれの思想が分ぢや。考へるたびに溜息をついて、刻の經つのを目へ知らせる、と針の尖に比すべき指がまた、其都度、涙を拭ふために、目をゆびさす。そこで、そら、何時であるかを知らせる鐘の音に當るものは、此心を打つ俺の苦悶の唸き聲ぢや。溜息と涙と唸き聲、それが卽ち分であり、時刻であり、時間である。ぢやが、おれが斯うして馬鹿な顏して、時器の役を務めて、せつせつと算へてゐる此一刻々々は、ひとへにあのボリングブルックへ喜びを運ぶ時刻なのぢや。……あの音樂はおれを氣ちがひにしをる。あゝ、もう聞きたうない。音樂のおかげで狂氣が正氣に返つた例もあるが、おれ

にはそれが逆になりさうぢやから。でもあれをおれに聞かさうとする志しは有りがたい。それは愛の證ぢやから。リチャードへの愛は、擧つておれを憎む世の中の、稀有の飾り針ぢや。

王の厩に勤めてゐた馬丁が出る。

馬丁　へい、王族さま、御機嫌よろしう！

リチャ　やア、貴族さん、ありがたう。……

當時の貨幣に「ロイヤル」といふのと「ノーブル」といふのがあつた。ロイヤルは十シリング卽ち三十グロートに相當し、ノーブルは六シリング、八ペンス卽ち二十グロートに相當してゐた。だから、ノーブルはロイヤルに比して十グロートだけ價格が低いのである。王リチャードは今は匹夫に成り下つてしまつたと慨歎してゐた處へ、馬丁が來て、「王族さま」と呼びかけたので、絕望の極から浮ぶ戲謔氣分で、わざと馬丁を「貴族さん」と呼んだのであ

る。馬丁が貴族であつて見れば、牢にゐる身分も多分貴族仲間ではあらうが、馬丁にも劣る境遇だから、其貴族仲間中の最下等な者だと自ら號して、次ぎの如き洒落をいふのである。

仲間うちでも、一等廉い筈のおれを、王族と呼んぢやア、十グロートだけの買ひかぶりぢや。汝は何ぢや？　何しに來たのぢや？　こゝへは、苦蟲を嚙み潰したやうなやつが、おれの不幸を長びかせるために、食ひ物を持つてくるばかりぢやのに。

馬丁　御前さま、手前はあなたが王樣であらつしやりました時分、お厩の馬丁をしてをりました者でございます。ヨオクまでやつて來まして、やつとの事で、もとの王さまのお顏を見ることを許されました。手前は悲しくてなりませんでした、あのお卽位の日に、ロンドンの街中を、ボリングブルック

さんが、あの栗毛のバーバリーに、……あなたが常住お乘りになりました、手前があんなに骨イ折つて世話アしましたあのバーバリーに……乘ッかつてゆかつしやるのを見ました時には。

リチャ　あのバーバリーに乘つていつたか？　こら、其時、彼れを乘せてゐるバーバリーは、どんな樣子をしてゐたり？

馬丁　得意さうに、えばり返つて、地上を蹴附けるやうにしてをりました。

リチャ　乘つてゐるボリングブルックもまた、定めし得意さうにいばり返つてゐたであらう。あの馬めは、おれの此手から麵麭を食ひをつた。此手で叩いてやるのを喜び誇つてゐをつたのに！　今に蹉躓いて倒れをるであらう、驕ろ者は倒るといふから。やつは其脊を横傾してゐるあの驕慢な男めの頸の骨を折らうともせないのか？……あゝ、馬よ、赦してくれ。こんなに罵倒するのぢやなかつた。人に威伏されて脊に乘せるやうに生れ附いて

ゐる汝ぢや。　おれは馬ではないのに、重荷を驢馬のやうに負はされて、あのボリングブルックのために虐使されてゐる。

牢役人が食物を盛つた皿を持つて出る。

牢役　（馬丁に）おい、そこを退きな。　もう歸らなくちやいけねえよ。

リチャ　（馬丁に）おれを愛してくれるのなら、もう歸つたはうがよい。

馬丁　心ン中ぢやいろ〳〵言つてることもあるんだが、口へ出しちやアいはれねえ、

しほ〳〵として入る。

牢役　（皿を前へ進めて）御前、めしあがりませんか？

リチャ　ま、毒見をしてくれ、いつものやうに。

牢役　今日は出來ません、つい此間王さまのとこから見えたエクストンのピヤースさんに、もうお毒見はするな、と言ひつかりましたから。

リチャ　（嚇となつて）惡魔に取られッちまへ、ランカスターも、うぬも！……もう我慢が出來ん。　堪忍袋の緒が切れた。

と牢役人を打擲する。

牢役　助けてくれ〳〵〳〵！

と逃げて入る。　此途端に、エクストンが五六人の家來を從へ、おの〳〵武器を携へて出て、すぐに立ちかゝる。

リチャ　どうするんぢや？　理不盡に襲ひかゝつて、おれを殺さうといふのか？　うぬ、持つて來をつた其死道具が役に立つわ。

と一人の手から武器を奪つて、忽ち其者を一擊して倒し

うぬも一しよに地獄へ往け。……

と返す一擊に他の一人を殺す。　とエクストンが躍りかゝつてリチャードに一擊を加へる。で、唸いて倒れかゝりながら

おれを倒す其手は、今に見い、消えずの火で燒けたゞれる！　エクストン、汝の猛惡な手で、王の國が其王の血で汚されたわ。……昇れ〳〵、わが靈魂よ！　汝の居どこは、高いとこに在る。重い肉は、下へ沈んで、かうしてこゝで死ぬのぢや。

といひ終つて息が絶える。

エクス　（歎息して）勇氣も十分、王の血も十分。あゝ、それを、兩方ともに溢してしまつた。どうか此仕事が善い事であつてくれゝばいゝが、今までおれを褒めてゐた惡魔めが、「こりやア地獄の記錄物だ」なんて惡くいつてゐやがるのが聞える。……（家來に）おれは此死んだ王を生きてゐる王のとこへ脊負つてゆくから、汝たちは他の死骸を運んでつて、此邊へ埋めてくれ。

入る。

第六場　ウィンゾア城

盛んに喇叭を吹く。ボリングブルックとヨオクが貴族ら侍者らを從へて出る。

ボリン　ヨオクの叔父上、最近の報道によると、グロースターシャヤのシセスター市が叛賊共のために焼かれたといふことですが、彼等は其後、捕縛されたやら、誅戮されたやら、更に不明です。……

ノオサンバランド　出る。

ノオサ　ようこそ。どういふ報告ですな？

先づ第一に、陛下の御幸福を祈り奉ります。次ぎに、オクスフォード、ソリスベリー、ブラント竝びにケントの首級をロンドンへ送りとどけましたことを御報告申し上げる。彼等が逮捕さるゝに至りました手續き一切は、此書面中に明細にしたゝめてございます。

と書面をさしだす。

ボリン　バーシーさん、お骨折御苦勞でした。いづれ行賞の際には、功勞相當の報償をしませう。

フィッ　フィッチーター　出る。

御前、手前はブローカスと士爵ベネット・シーリーの首をオクスフォードからロンドンへ送りました。右兩人は、オクスフォードに於て陛下に危害を加へ奉らんとした叛逆人共の一味でございます。

ボリン　フィッヲーター、君の骨折は、長く忘却しないであらう。實に立派な功勞である。

バーシーが　カーライルの　監督を　引き　立てゝ　出る。

バーシ　陰謀の首魁ウェストミンスターの院長は、良心の重荷と酸烈なる憂悶のために、其肉體を墓穴に委ね了りましたが、カーライルは、陛下の御裁斷によつて其運命を決すべく、尚生き殘りをります。

ボリン　カーライル、其方へは、斯う申し渡す。……只今所有してをる以外の、浮世を離れた然るべき寺院を擇んで、そこで餘生を送りなさい。平和な生を

送らるゝ以上、最早どういふ苦闘も心勞もない。　お前はわしの敵ではあつたが、其人格の高潔なことは、わしのとうに認めてゐたところだ。

エクストンが數人の者に棺をかつがせて出る。

エクス　大王陛下、陛下の危險物を此棺のうちに埋めて、献上に及びまする。　此中に陛下の最大の仇敵ボルドーのリチャードが悉く絶息して横はりをります る。

ボリン　（冷かに）エクストン、禮はいはんぞ。　おのしは、其忌々しき手を以て、誹謗を予が頭上に又此名譽の國土に持來すべき大惡事を行ひをつた。

エクス　いや、手前は、陛下がお口づからおほせられたことによつて、此事を行つたのでございます。

ボリン　（嚴然として）毒を必要とする者も毒を愛しはせない。　予も其方を愛せない。予は彼れの死を欲した、けれども予は虐殺者を憎み、殺された彼れを憫れ

む。　其方には褒美の辭をも、恩賞をも與へることは出來ん。　良心の苛責を汝の勞に對する報いとせい。　カインと共に夜の全暗黑の裡にさまよへ、白日に又と其面を現すな。……諸卿、わが榮達のために、血の洗禮を受けたかと思ふと、自分は堪へがたい悲みを感ずる。　さ、わしと一しよに、わしの哀悼する其人を吊つて、すぐさま喪服を着て下さい、わしは血で汚れた此罪の手を淨めるために、聖地への遠征に加はるであらう。……嚴肅に進發せい。……諸君は此葬儀を飾つて下さい、時ならん此柩送りに陪哭して。

入る。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

リチャード二世（完）

大正十五年四月四日印刷
大正十五年四月七日發行

（不許複製）

リチヤードニ世奥附
〔正價金貳圓五拾錢〕

譯者　東京市牛込區余丁町百十四番地　坪内雄藏
發行所　東京市牛込區辨天町百五十七番地　種村宗八
印刷者　東京市牛込區榎町七番地　竹内喜太郎

發行所　東京市牛込區早稲田　早稲田大學出版部
（振替口座東京一一二三番、大阪六八九〇〇番、名古屋二三四五番）

〔日清印刷株式會社印刷〕

文學博士 坪内逍遙譯

沙翁傑作集（第一編）

ハムレット

（二十版）
三色版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

此劇は沙翁の作三十七篇中の最有名なもので、苟も文化國の片端に列してゐる國で、此作を譯してゐない國はない。此作に關する出版物だけで、立派に一圖書館が出來る。だから、此作を讀まねば恥だとなつてゐる。譯者は今から十三年前、之を此傑作集の手初めに譯した。その頃はまだ口語體が今ほど行はれてゐなかつたから、大苦心で雅俗折衷體に譯した。こゝに特殊の趣味がある。原書は英國の學者といへども、專門家でない以上、註釋書なしでは讀めぬ位むつかしい。本譯には此原作に關する譯者獨自の研鑽の餘になつた一大論文が添へてあり、尚雅致に富んだ挿畫數十個（精巧な木版）及び美麗な三色版（名優アーヰングの扮したハムレット）が載せてある。

沙翁傑作集（第二編）

ロミオとジュリエット

（十二版）
寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

これは純粹の戀愛悲劇としては沙翁の作中唯一の物で、劇としては勿論、オペラとして、活動寫眞として、絶えず繰返して演ぜられる。十四歳の處女と詩人肌の青年の不幸な情死譚で、原文はハムレットに劣らず讀みにくい。殊に比喩や口合や洒落が夥しいのを、それを雅俗折衷體で譯した點に非常の苦心と特色がある。沙翁の若い時の作だから、いかにも若々としした麗はしさが全編に溢れてゐる。口繪、挿繪の豐富はハムレットと同例である。

發行所 東京早稲田 牛込田 早稲田大學出版部

賣捌所

東京神田 東京堂
東京京橋 北隆館
東京京橋 東海堂
大阪西區 盛文館
名古屋市 星野書店
其他各地書店

沙翁傑作集（第三編）

オセロー

（十版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

純粹の家庭悲劇たる點に特色があつて、作者死後三百年の今日讀んでも、極めて深刻な同感を牽く。そこに近代劇然たる趣味情調がある。黑面將軍と白皙の淑女との切なる戀、それを破壞するために讒誣奸謀を逞うする人面の惡魔イヤゴーの描寫は古今獨歩で、例のゲーテすら之に暗示を得てファウストの惡魔を書いたといはれる。三色版の口繪、例の數十葉の挿繪、いづれも譯文と相照らして其舞臺面を髣髴させる。譯もすつと現代語に近づけてあるから「ハムレット」や「ロミオ」よりも分り易い。

沙翁傑作集（第四編）

リヤ王

（八版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

所謂沙翁の四大悲劇は此作と「ハムレット」と「オセロー」と「マクベス」とであるが、或評者は之を其中の最傑作だといふ。とにかく我國人は老若とも最も深い感興を以て讀むのは此作であらう。といふのは、此作は主としてかく親子間の情操を取扱つて、外國には孝道がないなどと東西至情の一撰に驚かむるものがあるからである。しかるに、それと同時に現社會の一部分に利己的個人性や自然主義的不孝漢が寫されてゐるから面白い。乞食の國王が一朝にして乞食の代を描破したのは、眞狂人と戲狂人とが相絡んで活躍する趣味が無類である。此作以下は、譯語がすつと現代人になつてゐるから讀み易くて、一層面白い。

沙翁傑作集（第五編）

ジュリヤス・シーザー

（十版）寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

沙翁の作中で、政治的興味を中心としたのは此作以外に、もう一種あるきりである。これは羅馬の史實を其のまゝに取扱つた活歷劇なのだが、大詩人の作だけに、千九百年前が目の前に躍るやうである。大英雄シーザー、其政敵カシヤス、其義弟同樣のブルータス、アントニー、此四者の性格の對照が妙を極めてゐる。殊にシーザー死後の大演說の場は今人の血をすらも沸踴せしめる。男性的悲劇とは是れであらう。學校の教課書として最も適當だとせられてゐる。且つ最初に讀む沙翁の悲劇として適當である。

沙翁傑作集（第六編）

ヴェニスの商人

（十版）寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵稅十二錢

明治の十四五年頃に「人肉質入れ裁判」といふ外題で演ぜられたものゝ原本で、今では男裝の淑女ポオシヤ、强慾の高利貸シヤイロックの名を知らない芝居好きは日本中にない位だらう。此作以下は譯者が全く純粹な口語體で譯されたから、註釋がなくては外國人にすら讀めぬ此作が丸で近頃の日本の創作のやうに讀める。沙翁の作は一も讀者を失望せしめないといはれてゐるが、本傑作集も大丈夫、買つてから、あゝ買はなければよかつたと後悔なさる必要はないと保證する。

沙翁傑作集（第七編）

テムペスト

この作は沙翁の絶筆だといはれてゐる。それに關しては卷末に譯者が多年の研究考察になつた一大論文を附錄として添へてあるが、成程さうかも知れない。いかにも豐潤な、深刻な而も綽々たる餘裕のある夢幻的な高雅な喜劇である。前六種の作とは全く趣味情調を殊にしたロマンチックな喜劇で、妖精が出る、半人半獸の怪物が活動する、神仙のやうな人物、男を生れてからまだ二人とては見てゐなかつた處女がはじめて戀を知るなど、感興盡くる所がない。

（八版）寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

沙翁傑作集（第八編）

アントニーとクレオパトラ

沙翁の偉大なのは其作の彌々出でて彌々傑特な點にある。作意の變化して窮らない所にある。此作は其作才の爛熟期の最後の傑作で、巧みに世界的悲劇の契機を捉へて「全世界に君たらんか、熾烈なる肉的戀愛を全うせんか」といふ大デレンマに逢著した英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫したもので、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出だし、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめた。殊に、妖女王の性格の描寫は眞に驚異中の驚異で、古今空絶である。其間に丸で漢楚軍談でも讀むやうな男性的、政治的な興味が漲る。

（七版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

發行所 東京牛込 早稲田大學出版部

沙翁傑作集（第九編）

眞夏の夜の夢

大沙翁の多方面な天才の空想的側面の代表作としては、此上もない醇乎として醇な作である。先づ「テムペスト」に似たものだといへるが、若い時分の作だけに、更に愉快、更に奇拔、更に微妙、更に飄逸である。「五幕十幾場、其三分の二は悉く夢であり、幻である。想も夢幻的であり、調も夢幻的である。「いろ〳〵な妖魔が頻に跳梁して恋に人間を翻弄する。人妖が錯綜するが、それが極めて自然である。理窟を全脫して、而も條理が整然としてゐる。艷情があり、滑稽があり、葛藤があり、悲喜があり、忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色。

（六版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

沙翁傑作集（第十編）

マクベス

所謂四大悲劇の一つで、沙翁が技倆の圓熟期の作である。ドストエフスキ！の「罪と罰」の結構を更に雄大にし、さうして劇化したやうな名篇である。或は「ハムレット」以上、「オセロー」以上、リヤ王以上と稱せらるる。わが國へ來た此劇の活潑寫眞ばかりでも三種以上あつたらう。それほど傑れた作である。特に本編には、附錄として、譯者が「日本に於ける沙翁研究」、「飜譯、飜案及び上演の略誌」を添へた。これは我國での沙翁研究の沿革を精査したもので、著譯書とも、其年順、著名、譯者の名、發行所の名を明かにし、其上演に就いては、其年月、併優、劇場までも詳かにしてある。沙翁研究者の必讀を要する。所謂四大悲劇中では、これが一等讀み易いであらう。口語體で譯されてあるだけに、

（九版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

發行所 東京牛込 早稲田大學出版部

沙翁傑作集（第十一編）

火尺報尺

（四版）寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

本篇は沙翁が作中で最も皮肉な喜劇と特稱せられるものである。沙翁にも得意時代、失意時代があつたのだが、これは其悲觀時代の一名作で、現實曝露的な所に一味ショーやブリューらの近代劇と相通ずる皮肉味がある。附錄として、特に難句解が添へてある。印刷、口繪、挿畫、裝釘、其他一切前例の通り。此事は一々これからは斷らないでもあらうが、同例だと信じて下さい。

沙翁傑作集（第十二編）

冬の夜ものがたり

（五版）三色版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

つい先年英國の劇作者、舞臺監督者のパーカーが最新式の上演をやつて大評判になつた沙翁の最晩年の最練熟した技巧に成つた作である。今尚舞臺上で必ず成功する不思議に歌舞伎劇式の世話と時代と喜歌劇的氣分との混淆した夢幻劇である。四大悲劇ぐらゐでは萬魂の沙翁は分らない。斯ういふ作を含味しないうちは沙翁を語る權利がない。わが國の默阿彌などの講釋種のお家騷動物に一寸似た筋立であるが、其詩としての品位は比べ物にならない。

發行所 東京早稲田牛込 早稲田大學出版部

沙翁傑作集（第十三編）

リチャード三世

（四版）寫眞版口繪入 木版密畫多數入 定價貳圓五十錢 郵税十二錢

沙翁が習作時代の傑作で純粹の正史劇の標本で、わが國でいふ活歴劇に相當するが、同じように正史本位で書いても、我國の作者と大詩人とではどんなに違ふかゞ此一作だけによつても分る。主人公は王族でありながら偏僂で、容貌のおそろしく醜い惡魔的天才である。作者はニイチエが大發見らしく唱へた例の逆道德の骨子を、もう既三百年前に此主人公に道破させてゐる。エリザ劇勃興當時の代表作で、既譯十二編とは全く撰を異にしてゐるところを熟讀なさい。

沙翁傑作集（第十四編）（第十五編）

ヘンリー四世

（三版）三色版口繪入 木版密畫多數入 各册貳圓五十錢 郵税十二錢

沙翁の史劇中の最傑作である。第一、第二と二部に跨つてゐる長篇で、英國の内亂を舞臺面にした勇壯激越な政治的悲劇と、自然の滑稽で人の頤を解く極寫實的な、今尚躍り動くやうな市井風俗の喜劇とが、無縫の天衣のやうに巧妙を極めて織り交ぜてある。沙翁貶罵者の棟梁であるトルストイやショーさへも、此作の喜劇部面だけには全く我を折つて、不易の妙味があると賞めてゐる。殊にフォールスタッフといふピール檪の化物のやうな放蕩武士の性格描寫は古今獨歩である。ハムレットを沙翁の傑作だといふが、其實、あの性格は大分不自然でもある。フォールスタッフは、純で、自然で、其性質の複雜な點に於ては、優にハムレットに匹敵してゐる。評者の多くはクレオパトラを沙翁の女性描寫として、優に他のすべてを凌駕してゐる。

發行所 東京早稲田牛込 早稲田大學出版部

沙翁傑作集（第十六編）

お氣に召すまゝ

沙翁が幸福に暮らしてゐた得意時代の作であるので、彼れの喜劇中の最も陽氣な、最も愉快な作だと稱される。讀む者も自然と暢氣な晴々した心持になる。「牧歌的」と特稱される作である。田野山林の詩趣が横溢してゐる。或部分は品のよい喜歌劇とも見られる。舞臺が主として深林中なので屢〻野外劇の脚本にもされる。清浮な、無邪氣な、可憐な、高雅な作意であるから、外國では女學校の餘興用に歡迎してゐる。既譯十五卷中のどの作とも違つてゐる處に此作の特色がある。

（三色版口繪入）
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁傑作集（第十七編）

ちゃく馬劇らゝ

沙翁立身前後に流行つた、ファース仕立の思ひ切つて蠱から式な喜劇の代表作である、其れ自ら一喜劇である開幕劇へ、本筋の喜劇を編み込んだ趣向が、先づ最も珍らしい。雷聲が雷娘を難なく征服する段取に至つては更になかしい。下思議に今も尙歡迎される喜劇である。我國では其幾場かは醜案された。本譯には例の挿繪以外に特に名優の寫眞數葉を挿入した。沙翁の喜劇中の最も分り易いのから讀みたいと望む人は、先づこれからお讀みなさい。

（再版）
寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 東京牛込 早稻田 早稻田大學出版部

文學博士 坪内逍遙譯

沙翁傑作集（第十八編）

十二夜

既刊「お氣に召すまゝ」の姉妹篇である。攣生の同胞の女の方が故あつて男裝してゐるのが間違ひの種になる作意である。此間違ひを骨子とした點だけは作者の習作期の或作に似てゐるが、劇詩としての價値は無論數等優つてゐて、沙翁が作中、喜劇としては最も純粹なものと稱せられ、今尙愛讀もされ、實演もされる。既刊のどの作とも異つた味だから、之を讀むと沙翁の創作力の彌〻出でて彌〻無盡藏なことが分る。上品な滑稽、高雅な戲謔の上乘である。

（再版）
寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

沙翁傑作集（第十九編）

コリオレイナス

ニイチェの超人道德の標本のやうな傲岸不敵の一貴族を中心にして、其周圍に渦卷くアリストクラット對プロレタリヤの黨爭を經緯としたし、一の挿話をも一の戀愛情味をも粧點しないで鋭く性格悲劇としての筋を一貫したのが沙翁集中の異例である、特權階級の專横、武斷政治の弊、平和と戰爭の得失、所謂多頭の怪物たる群衆の蠢動、選擧期に於ける俗政治家の戸別訪問等、ところ〴〵現代に對する批判や諷刺が皮肉にも豫寫されてゐるのが面白い。

（再版）
寫眞版口繪入
木版密畫多數入
定價貳圓五十錢
郵稅十二錢

發行所 東京牛込 早稻田 早稻田大學出版部

文學博士 坪内逍遙譯

砂翁傑作集（第二十篇）

沙翁が最晩年の三大ロマンチック劇の隨一で「テムペスト」や「冬の夜話」の姉妹篇です、女主人公イモーゼンは作者の理想的淑女だと推想される、筋も脚色も趣味情調も不思議に我歌舞伎劇に似てゐる、本篇は當飜譯集の最終卷だから譯者が過去十六年間の工夫を語る長篇の飜譯苦心談が添はつてある、それは世のクラシックを讀む人及び譯する人の絶好指針です、例の通り豐富な挿畫、コロタイプノ口繪が三葉、エレンテリーのイモーゼン、青年期のゴルヅンクレーグの王子など

四六判美裝
口繪及挿畫多數
定價貳圓五拾錢
郵税十二錢

沙翁傑作集（第廿一編）

此作第一の特色はそれが沙翁の處女作であると隨つて古今獨歩の世界的劇天才の發達の跡附くべき必讀書たると第二は其時代相の反映、諷刺、漫畫であると就中不自然な衒耀的辭令や矯飾的口語の嘲弄であるから滑稽百出戲謔縱横の對話劇であると而して主題は五才女と五才子の戀愛戰爭、脚色は詩的笑劇、譬へば三馬、一九、鯉丈、金鶩らの作意を高尚にし貴族的にし女性的情味を豐かにして劇化したやうな作、地口や語呂や當込みや駄洒落の連續、到底飜譯すべからざるもの、それを此譯者がどう取扱つたか是れ亦譯の興味である。

四六判美裝
口繪及挿畫多數
定價貳圓五拾錢
郵税拾貳錢

發行所 東京牛込 早稲田大學出版部

坪内逍遙著 特製〔口繪、見返し繪、假面圖を始め凡て美麗を極む〕郵税八錢 貳圓貳拾錢

家庭用兒童劇 第一集

目次

狐と鶏
こだまと
獅子と虎の喧嘩
親雀と子雀
蠅と蜘蛛
田舍の鼠と東京の鼠
神樂師の息子銀吉
メレー婆さんと其飼犬チポ
觸るると金
鳥の裁判
をろち退治
龍宮
附錄
家庭用兒童劇に就いて

坪内逍遙著 特製〔日繪、見返し繪、假面圖が始め凡て美麗を極む〕 貳圓貳拾錢 郵税八錢

家庭用兒童劇 第貳集

目次

イソップ
わるい友だち
鼠の會議
槲と芒
日本神話
因幡うさぎ
大國ぬし
すくなびこな
高まが原
國ゆづり
附錄
歌劇化したをろち退治

坪内逍遙著

家庭用兒童劇 第三集

目次

二つの猫
太陽と風
正直な樵夫
なめくぢとばつた
大きな魚煎餅
見え坊の阿呆がらす
象と六人のめくら
忠義な鷹
かたはもの
小さい娘になつた猫
うぬぼれた風見草
いつまでもつゞくお話
美しい歌

坪内逍遙著　小川治平氏　宍戸左行氏　畫

學校用小御本

定價貳圓
郵稅八錢

坪内博士の家庭用兒童劇は關西四大都市の成功的巡演によつて彌〻其眞價を認めらるゝに到つたが、博士は今や我社會の現狀に鑑み更に新意を凝らし、特に學校用公演用に適すべき大小七種の少年劇脚本を創作せられた。何れも博士獨特の斬新輕妙な構案に成つたもので、其多くは小歌劇の形式で綴られ、題材も其取扱ひ方も在來の所謂童話劇とは其撰を異にし、大人の讀物としても趣味深いものである。舞臺裝置、扮裝等の指圖も深切を極め、挿圖も作意に副つて妙を盡してゐるから、直ぐにも公私の實演用に役に立ちます。

東京牛込　東京東一二三　振替
大阪大一一一六八九〇〇
早稲田大學出版部

坪内逍遙著

兒童劇と演劇

定價壹圓八拾錢
郵稅八錢

目略

(一)現世紀の三特徴
(二)現代に於ける女性の任務
(三)遊戯の藝術化
(四)兒童劇の進化
(五)兒童劇の種類及び使命
(六)兒童劇の效用
(七)兒童劇に對する種々の杞憂
(八)兒童劇の扱ひ方
(九)結論

東京牛込　東京東一二三　振替
早稲田大學出版部

イブセン傑作集

四六判布製函入
毎冊口絵数葉入
全部六卷
各壹圓五十錢
郵税各十錢

—(全部(六卷)完成)—

1 島村抱月譯 人形の家
2 島村抱月譯 海の夫人
3 坪内士行 島村民藏譯 ロスメルスホルム
4 坪内士行譯 小さいアイヨルフ
5 坪内士行譯 野鴨
6 坪内士行譯 ヘッダ・カブラー

北歐ノルエーの僻地に生れ社會劇の大作を出して歐米の思想界を震撼したのはイブセンである。婦人の自覺、婦人の解放、婦人の獨立を題材とした「人形の家」が本譯書に依て屢々我が劇壇に演ぜられて女大學主義の守舊家を戰慄させた事は誰も知つてゐる。彼の作は何れも傑作ならぬは無いが茲に譯出した六作は傑作中の傑作である。而して譯者は我劇壇文壇に隱れもない島村抱月、坪内士行の兩氏及び島村民藏氏であるから其譯筆の如何は言ふに及ばぬ。

發行所 東京牛込 早稲田 早稲田大學出版部

終